

## 社会福祉法人 蓮花の会 平成 28 年度事業報告

### 基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい(生きたい)と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

### 運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

### <重点目標>

#### 1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を行い、法人理念の浸透に努めました。前日の自らの支援を振り返り、今日の支援にいかすよう福祉従事者としてのあるべき姿を共通目的にすることにより、組織的なサービスの質の向上に取り組みました。

#### 2 福祉人材の育成

「人材の確保」・「定着」・「育成」の視点で、働き甲斐のある職場づくりのために、処遇改善とキャリアパス、人事評価の整備を行い次年度に繋げました。本年度は、法人内の全体会議の他に30回延べ65人を外部研修に派遣して職務能力の開発及びリーダー層の育成に取り組みました。また、働きやすい環境を整備するために老朽化した本体施設の建替を計画して施設整備補助の申請を行いました。

#### 3 法令遵守

福祉サービスの各事業所が専門職等の人員配置基準を守り、法令に定められた基準に基づいて請求事務を行いました。就業規則及び諸規程の見直しを行い、現行法令及び法改正に対応できるよう専門家の指導を受けて再整備しました。佐賀県が主催する事業所説明会等には積極的に参加し、遵守すべきルール等の変更について情報収集に努めました。

#### 4 啓発・広報

開かれた法人運営を目指し、年間2回「蓮の実ニュース」を発行して各事業の活動等の報告を行いました。また、法人のホームページを開設して情報を発信し、地域から信頼を得られる事業所づくりに努めました。

#### 5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事等の組織統治体制を整備しました。また、税理士・社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制を構築しました。

## 法人運営

### (1) 組織体制

① 理事・監事会	8回開催	② 評議員会	5回開催
③ 監事監査会	2回開催	④ 評議員選任・解任委員会	1回開催

### (2) 財政基盤

① 地域活動支援センター事業収入	② 居宅介護事業収入
③ 日中一時支援事業収入	④ 特定相談支援事業収入
⑤ 障害児相談支援事業収入	⑥ 生活介護事業収入
⑦ 共同生活援助事業収入	⑧ 短期入所事業収入
⑨ 障害児通所支援事業収入	⑩ 移動支援事業収入
⑪ 寄付金等収入	

### (3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	<u>4,750千円</u>
・日中一時支援事業・レスパイト事業	3市3町	<u>5,438千円</u>
・移動支援事業	3市3町	<u>1,680千円</u>

#### その他の補助・助成金等

・平成28年度年賀寄付金配分金	<u>5,000千円</u>
・清水基金一般助成金	<u>700千円</u>
・平成28年度社会福祉法人経営労務管理改善支援補助金	<u>460千円</u>
・雇用開発助成金	<u>200千円</u>
・白石町6次産業推進事業費補助金	<u>156千円</u>
・白石町社会福祉協議会生きがい活動助成金	<u>50千円</u>
・白石町手をつなぐ育成会活動助成金	<u>27千円</u>
・NHK歳末たすけあい募金	<u>12千円</u>

## 6 利用環境の向上

- 1、既存の日中一時支援事業（定員8名）は、利用の予約が殺到し、キャンセル待ちや他の事業所を利用するなど利用者のニーズに応えることができなくなりました。そのため、新たに放課後等デイサービス事業所（定員10名）を建設して両事業を合わせて18名の利用者を受け入れられるように整備しました。
- 2、特別支援学校を卒業しても進路先が見つからない重い障害を持つ方を、当事業所で受け入れるために本人及び他の利用者の活動と安全を考慮して、今できる精一杯の環境整備を行いました。
- 3、「もっと働きたい」「働いて、より高い工賃を得たい」と望む利用者にとって、既存の事業所の仕事は物足りなさを感じていたため、生活介護事業と多機能型の就労継続支援 B 型事業所を開設する準備を進めました。
- 4、法人内事業所が連携、協働しながら利用者の障害特性の理解とその支援に努めました。

## 平成 28 年度 地域活動支援センター事業報告

### 1 事業運営基本方針

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らす事ができるよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事・送迎等の必要な支援を行ないました。あわせて、生産活動の機会を通じて就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、ひとりひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。

### 2 利用者の処遇

利用者ひとりひとりの障害の程度や特性に応じた軽作業の内容を検討し、働く事の意義と楽しさを知ってもらう事で、心身の活性化と日常生活動作の向上につなげるよう努めました。また、季節ごとの行事やレクリエーションを取り入れ、他者との交流及び地域社会との交流の機会を楽しめるよう支援しました。

### 3 生産活動

利用者の工賃につながるように、空き缶回収、空き瓶回収、古紙回収や物品販売、フリーマーケット等の生産活動を行い、今年度の目標額を達成しました。

### 4 利用者の実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	59	57	69	51	40	50	43	52	56	44	59	62

年間延べ利用者数 642 人 月平均利用者数 53.5 人 一日平均利用者数 2.6 人

### 5 健康管理

毎利用のはじめに体温と血圧の測定を行い、体調不良及び身体に変化がある場合は、施設内の看護師による指示、指導を仰ぎ必要に応じて医療機関へつなげました。

### 6 防災計画

平成 28 年 7 月 28 日（木）午前 10 時 10 分に給食室からの火災発生を想定した通報・避難訓練を実施しました。平成 29 年 2 月 25 日は他の事業と合同で災害時の避難訓練を実施し、避難誘導や避難経路の確認を行いました。

### 7 日課

サービス提供時間（土・日・祭日を除く 9:30 から 15:30）において適宜休憩をはさみながら軽作業等に取り組んでいただきました。利用者の体調や天候等を考慮して作業内容を検討し、無理がない程度の日中活動を提供しました。

### 8 職員研修

毎月開催される法人内の全体会議において事業所間の情報の共有、利用者の支援会議等を行いました。また、10/22・23 日に熊本県で開催された「働く」障害のある人たちのデイセントワークについて他の事業所の事例検討や一般就労された方の体験談などを聞く研修に参加して障害のある方々の就労に対する思いに触れてきました。

### 9 資金報告

平成 28 年度収支計算書の通りです。

## 平成 28 年度居宅介護事業報告

### 1 基本業務の内容

利用者様がお自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。保護者様の就労等で、ひとりで留守番をしている利用者に対しては、1日3回自宅を訪問して朝の支度や排泄、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。また、ひとりで病院等を受診できない利用者様に対しては、福祉有償運送車両を用いて通院の介助を行い、安全運転で目的地まで送るよう努めました。ご家族様と顔を合わせる機会が少ない利用者様にあっては、ご家族様と事業所間の連絡帳を作成して利用者様の様子を報告するなどご家族様との連携に努めました。

### 2 利用者の処遇

利用者様ができることは、なるべくしていただき、自信が持てるような言葉かけにも配慮して支援を行いました。これまで過ごしてこられた生活習慣を大切に、課題が見える場合には、支援会議等で検討し、より良い支援につなげることで利用者様に安心と信頼を得られるよう努めました。

### 3 健康管理

毎回、サービスをご利用の際に、ご本人もしくはご家族様に体調やその他のご様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。また、緊急時等の対応のためにマニュアルを整備しました。また、研修にもできる限り参加し、サービスを利用される方の障害特性などを理解、把握するために専門書等で勉強して利用者様に安心してご利用いただけるよう努力しました。

### 4 移動支援

福祉有償運送により通院及び外出等の支援を行ないました。平成 28 年度は、延べ 896 人(回)の利用があり、17,656 km 走行しました。

### 5 サービス提供時間

午前 7 時 30 分から午後 7 時のご利用が大半でしたが、利用者様がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として 24 時間体制を整備しました。

### 6 資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

## 平成28年度 日中一時支援事業報告

### 1 運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

### 2 利用者の処遇

温かい愛情をもって、すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。

主にトイレ排泄が出来るように、サイン出しの指導や着座訓練を行いました。

### 3 環境の整備

施設内の清掃と利用者の身の回りの整理整頓に心がけました。白癬に罹患した方が、利用された際には、保護者様へ状態の報告や床消毒を行い感染拡大防止に努めました。

### 4 防災計画

防災計画を整備し、年2回、平成28年7月28日と平成29年2月25日に施設内他事業と合同で避難訓練を実施しました。

### 5 日 課

・平日 学校の下校時刻に合わせて送迎車で施設へ移動

施設到着後 排泄・手洗

おやつ 15:00～15:20

趣味の活動・娯楽 15:20～18:00(保護者迎え迄)

帰宅(保護者迎え) 基本18:00まで

帰宅(事業者送り) 基本17:30事業所出発

・土曜 祝祭日 学校休業日

基本受入 9:00～17:00

趣味の活動・娯楽 9:00～12:00

適宜休憩・水分補給

昼食 12:00～13:00

趣味の活動・娯楽 13:00～15:00

おやつ 15:00～15:20

趣味の活動・娯楽 15:20～17:00

### 6 営業日

事業の実施時間は、午前7時から午後9時までとし、利用者の保護者の都合によりその範囲内で伸縮しました。

### 7 資金計画

別紙、平成28年度収支計算書のとおり、通常の運営経費は、市町からの委託費収入、利用者負担金等でまかないました。

## 平成 28 年度 特定相談支援 事業報告

### 1 運営基本方針

常に利用者の立場に立って、障害者自身やご家族が望む自立した日常生活、又は社会生活ができるように数多くの障害福祉サービス事業所との連携を図り、利用者が暮らしやすいサービス等利用計画の作成に努めました。

### 2 利用者の処遇

利用者又はご家族の意思及び人格を尊重し、利用者やご家族が望む暮らしの実現に向けたサービス等利用計画の作成に努めました。又、守秘義務を遵守して利用者とその御家族から安心と信頼を得られる事業運営に努めました。定期のモニタリングはもとより、ご本人又はご家族、事業所等からの相談等の連絡があった時には即時対応に努め、安心して地域で生活できるように支援しました。

### 3 サービス等利用計画作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	2	3	9	4	3	1	5	3	2	3	2	7	44
モニタリング	5	6	11	11	5	9	8	5	10	6	5	7	88
合計	7	9	20	15	8	10	13	8	12	9	7	14	132

### 4 計画相談登録者数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

男性 23 名 女性 17 名 合計 40 名

### 5 職員研修その他

各種の研修会等に参加し、相談支援専門員としての資質の向上と専門的知識の習得を図り、その他関係機関との連携や地域課題への取り組みも行いました。

研修内容	開催日
自立支援協議会	4/8 7/8 11/11 3/10
精神ネットワーク	9/16 11/18 1/20 3/17
相談支援部会	4/6 8/10 12/7 2/8
就労支援部会	5/11 9/7
相談・支援研修	10/22・23
スーパービジョン・ファシリテーション研修	11/14・11/15

11/14・15 の研修は相談支援の資質の向上及び人材育成を目的に開催され、他の事業所の方々と事例検討・計画作成の演習を行って来ました。又、相談支援部会は杵藤地区の相談支援の事業所が集まり、グループワークで事例検討を行いました。その他毎月職員全体会議を行い、当法人内の事業所同士の情報の共有、利用者の支援会議・研修等を行いました。

### 6 資金計画結果報告

平成 28 年度収支計算書のとおり通常の運営経費は給付費でまかないました。

## 平成 28 年度 障害児相談支援 事業報告

### 1 運営基本方針

常に利用者の立場に立って、障害児自身や保護者が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、数多くの障害福祉サービス事業所との連携を図り、利用者が暮らしやすいサービス等利用計画の作成に努めました。

### 2 利用者の処遇

児童又は保護者の意思及び人格を尊重し、児童や保護者が望む暮らしの実現に努力を惜しむことなく、児童の身の辺りの自立・社会性の向上に向けたサービス等利用計画の作成に努めました。又、守秘義務を遵守して児童・保護者から安心と信頼を得られる事業運営に努めました。

### 3 障害児支援利用計画作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	1		1	7	8	4	1	1	1	1	6	12	43
モニタリング	1	2	2	1	13	9	8	8	5	3	4	10	66
合計	2	2	3	8	21	13	9	9	6	4	10	22	109

### 4 計画相談登録者数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

男児 20 名 女児 6 名 合計 26 名

### 5 職員研修その他

各種の研修会等に参加し、相談支援専門員としての資質の向上と専門的知識の習得を図り、その他関係機関との連携や地域課題への取り組みも行いました。

研修内容	開催日
自立支援協議会	4/8 7/8 11/11 3/10
精神ネットワーク	9/16 11/18 1/20 3/17
子ども支援部会	6/8 10/12
相談支援部会	4/6 8/10 12/7 2/8
相談・支援研修	10/22・23
スーパービジョン・ファシリテーション研修	11/14・11/15

11/14・15 の研修は相談支援の資質の向上及び人材育成を目的に開催され、他の事業所の方々と事例検討・計画作成の演習を行って来ました。又、相談支援部会は杵藤地区の相談支援の事業所が集まり、グループワークで事例検討を行いました。その他毎月職員全体会議を行い、当法人内の事業所同士の情報の共有、利用者の支援会議・研修等を行いました。

### 6 資金計画結果報告

平成 28 年度収支計算書の通り、通常の運営経費は障害児相談支援給付費でまかないました。

## 平成 28 年度 生活介護事業報告

### 1 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう入浴、排せつ及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、地域における生活の充実と社会的自立を支援するとともに、一人ひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。入浴時には、個々に応じた支援を行い、安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

### 2 生産活動

自主製品として、貼り絵カレンダーや手作り小物を作成してフリーマーケットで販売しました。また、空カンや空ビン、古紙等を回収して選別を行いました。

### 3 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し、常に利用者の立場に立って心身の健康保持と機能の向上に努めました。

### 4 健康管理

毎利用のはじめにバイタルチェックを施行し（検温・血圧測定・体調確認）体調不良及び身体に変化がある場合は施設内看護師に指示、指導を仰ぎました。また、嘱託医による月 1 回の往診、健康相談を実施しました。感染症予防対策として日々の手洗いと換気の励行、温度、湿度の調整をこまめに行いました。体温調節が難しい利用者には、衣服等の調整を行い利用者の健康管理に努めました。

### 5 防災計画

防災計画を作成するとともに、今年度 7 月と 2 月の 2 回法人内の他の事業所と合同で消防訓練を実施しました。平成 29 年 2 月 25 日には、避難指示発令を想定した訓練を実施し、避難誘導及び避難場所までの経路の確認を行いました。

### 6 日課

月曜日から土曜日までサービスを提供し、水分補給や休憩をはさみながら軽作業と入浴を中心に日中を過ごして頂きました。個別支援計画に基づき一人ひとりの個性や特性に配慮して課題に沿ったサービスを提供しました。

### 7 職員研修

平成 28 年 10 月 22 日・23 日に熊本県へ「障害のある人の意思決定とその支援」の研修に参加しました。障害の重い人の意思をどのような方法で確認し支援すればいいか、また障害があっても「自分の人生は自分で決める」というあたりまえの権利を保障していくための実践について、現場からの声を聞き、意思決定の難しさ、意思決定をする上で、たくさんの経験が必要という事を学ぶことができました。

### 8 資金計画結果

平成 28 年度収支計算書のとおり、運営費は介護給付費、利用者負担金で賄いました。



# 平成 28 年度 共同生活援助事業報告

## 1 事業運営基本計画

利用者が安心して暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、利用者の主訴を傾聴しながらコミュニケーションを図り、また入居者ひとり一人が明るく楽しい共同生活を送ることができるよう努めました。

## 2 利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重した個別支援計画を作成し、その計画に基づき日常生活に必要な身体的、精神的な支援を実践しました。利用者の意向の把握に努め、出来るだけ希望に添いながら、自立支援に努めました。

## 3 健康管理

調理師が献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼能力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを取り入れ、早朝や休日の散歩を実施しました。今年に入り全国的なインフルエンザの流行で、2月は当事業所でも1名に感染が見られましたが、看護師や医療機関との連携により、早期発見、早期治療ができ蔓延することはありませんでした。

## 4 環境の整備

室内の美化促進の為、日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活が出来るよう配慮しました。年末の大掃除には法人職員の協力を得、高所の外壁等徹底した清掃に取り組みました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適に暮らしていただけよう努めました。

## 5 防災計画

防災計画を作成すると共に、年2回、法人内の他事業所と合同での夜間を想定した災害時避難訓練を実施しました。避難に関わる必要物品や備蓄も買い揃え、定期的に確認を行いました。

## 6 改修工事等の実施

- 1) 居室2か所の壁にシミや壁紙のはがれが見られた為、業者に張替えを依頼しました。
- 2) 裏の出入り口に雨水が溜り歩きにくい為、セメントで固めてもらいました。
- 3) 裏出入り口は日没後足元が見えない状態だったため、事故やケガ等の防止の為にセンサーライトを設置しました。

## 7 資金計画

別紙、平成 28 年度収支計算書の通り、通常の運営は介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

## 8 入退居報告

入退居者 0 6床満床

## 平成 28 年度 短期入所事業報告

### 1 事業運営基本計画

利用者が安心して宿泊できるよう家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関等との連携を密にして将来の自立に向けた支援を実施しました。

### 2 利用者の処遇

利用者ひとり一人の心身の状況に応じ、日常生活上必要な支援を考慮して利用者の健康の保持とADLの向上に努めました。

### 3 健康管理

調理師が献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。来所時の健康チェックを行い、体調の変化に留意しました。今年度は熱発等により保護者への連絡は密に行ったものの、重症化する方はありませんでした。今後も看護師や相談医との連携を深め、体調管理に努めます。また虫歯予防のために食後の歯磨きは利用者の自力歯磨きの後に仕上げ磨きを徹底しました。

### 4 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、快適な環境で過ごしていただけるよう換気、通気に配慮し空調の管理を行いました。

### 5 防災計画

防災計画を作成すると共に、年2回、法人内の他事業所と合同での夜間を想定した災害時避難訓練を実施しました。避難に関わる必要物品や備蓄も買い揃え、定期的に確認をしました。

### 6 資金計画

別紙、平成28年度収支計算書のとおり、通常の運営は介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

### 7 利用実績

	28年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	29年 1月	2	3	合計
延べ 人数	26	24	27	26	31	29	30	26	27	22	26	30	324
延べ 日数	55	52	54	55	60	58	61	53	54	50	51	60	663

# 平成 28 年度 放課後等デイサービスはなという事業報告

## 1 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祭日や長期休暇などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力育成を行うため、放課後等デイサービス事業所を平成 28 年 8 月 1 日に新設し運営を開始しました。

利用を開始するにあたり、児童の困っていることや、頑張ってもらいたいことを保護者様から聴き取りを行い、個別的な支援計画書を作成して対応しました。全ての利用児に対して個別支援計画を作成し、スタッフ間で支援内容を共有しながら訓練並びに支援を行いました。

開所当初は特別支援学校からの利用がほとんどでしたが、平成 29 年 1 月からは特別

支援学校のみではなく、地元小学校の特別支援学級に通学している児童の利用が増加しました。「生まれ育った町で一緒に暮らしていく」という当法人の理念に沿うよう、地域との連携を視点において事業を推進しました。

## 2 利用者の処遇

利用児童の障がい特性は様々であるため保育士、作業療法士等の専門職を含めた 4 名の職員を配置しており、排泄や更衣等の日常生活動作訓練、集団活動に必要なコミュニケーション能力やルール理解の向上にむけた訓練、社会交流としての買い物訓練や余暇的活動の充実を図るため公園などへの外出も行いました。

環境面では活動スペース（共有スペース）の両端に 1 ヶ所ずつ計 2 ヶ所、壁収納できるパーティションを設置しています。これにより苦手な音や、集団環境などのストレスから一時的に回避できるよう配慮しました。

## 3 研修計画

常勤専従の作業療法士から月 1 回の全体会議時に「放課後等デイサービスの概要と個別支援計画」について施設内研修を行いました。また、日々のサービス提供開始前にミーティングを実施し、利用児童の特性理解など知識向上を目指しています。施設外研修としては全国規模のフォーラム、県や社会福祉協議会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。

- ・きょうされん全国大会
- ・佐賀県ファシリテーション研修
- ・リーダーシップ研修
- ・佐賀県作業療法士会学術研修 等

#### 4 健康管理

利用時には保護者様や学校担任より、睡眠状態やストレス具合など、その日の体調を聴取し、スタッフ間で情報を共有するように努めました。また、利用開始時には体温測定や必要に応じて血中酸素飽和度（Spo2）測定を実施しました。

衛生管理面にも配慮し、食事やおやつ前の手洗い実施や、インフルエンザ等の感染性の病気が流行った際にはアルコール消毒等を実施しました。

#### 5 防災計画

平成 29 年 2 月 25 日（土）午前 11 時にボイラー室より火災が発生したという想定で消防訓練を実施しました。また同日、午前 11 時 30 分に町内放送の無線機により避難指示が発令されたことを想定し、避難所に指定されている白石町健康センターまで避難誘導訓練を実施しました。

#### 6 日課

学校からの送迎後、バイタルチェック、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。その後はおやつを食べたり、各々が好きなことをして過ごせるように余暇時間の提供を行いました。利用終了時には保護者様の希望により自宅まで送迎を行いました。

#### 7 実績

(ア)利用契約児童数（平成 29 年 3 月現在）

小学部	中学部	高等部
15 名	9 名	5 名

(イ)利用実績児童数（平成 28 年 8 月開設 ～ 平成 29 年 3 月）

年 月	延べ利用者数	1 日平均利用数
平成 28 年 8 月	208 名	8.3 名
平成 28 年 9 月	198 名	7.6 名
平成 28 年 10 月	206 名	7.9 名
平成 28 年 11 月	218 名	8.3 名
平成 28 年 12 月	214 名	8.5 名
平成 29 年 1 月	195 名	8.1 名
平成 29 年 2 月	184 名	7.6 名
平成 29 年 3 月	228 名	8.4 名

